

県民参加による対話型 ワークショップ（高校生）

福島^の未来をつくるために
高校生の私たちが
できること・すべきこと

郡山会場	令和元年12月23日（月）
会津会場	令和元年12月24日（火）
福島会場	令和元年12月25日（水）
いわき会場	令和元年12月25日（水）

できること、すべきこと

1班

地域PRの
CMを高校生で
つくる。

理由 CM(動画)にはやはり、老若男女問わず、
たくさん人の目に触れるから。

できること、すべきこと

1班

「るるる」高校生ver,
を作成する。

理由 まだ知られていない良いお店がたくさん
あるので、高校生目線に発信することと、
新しい福島の魅力を知らせよう
きっかけになるから。

できること、すべきこと

1班

グレタさんのデモ
日本ver. を行う！

理由 環境問題は、自分たちの世代が積極的に
考えるべき事だから。

できること・すべきこと

自分たちが

勉強を頑張る!!!

自分より自分から!!

2班

- 県の学力が下位層にあることは印象が悪いので、それを払拭するため。 (人口の流出しすぎを防ぐ!)
- 勉強を頑張って県の学力を上げることができたら、新しく大学などができ、過疎化対策にもつながるから。
- 勉強を頑張れば、SDGsの達成目標でもある、質の良い教育をにつながると思ったから。

できること・すべきこと

ボランティア

2班

- ・台風被害を受け、私たちにできるのは、ボランティアだと考えたため。
- ・ゴミ拾いを積極的に行うことで、海・湖の環境を守り、住みやすい町づくりをする。
SDGsのゴール!

できること・すべきこと

呼びかけ

2班

- ・マナーやルールなどを呼びかける。(公共交通機関、公共施設等)
- ・SNSを活用する。
- ・ポスターや掲示板を活用する。

一人一人の意識が
変われば、住みやすい町づくりにつながる。
SDGsの達成目標

~~SNSでの情報発信~~

3班

SNSでの 情報発信

- ・若者が利用するSNSを通じて
天々の福島の魅力をアピール。
- ・例) InstagramやTwitterで流行のセル動画の作成

自分たちで 足を運んで 情報発信

3班

- ・自分たちが直接足を運んで
情報だけでなく、熱意を伝える!!

地域内での 情報発信

3班

- ・自分たちの住む地域の良さを
知ってもらえるようにする。
- ・対地域の人々
- ・パンフレットなどを作る。

観光地PRについて

- 動画づくり
- SNS
- ツアーの企画

理由

SNSでの拡散力を使って全世界へ広められて、
観光地を知ってもらえるから。

4/21/23

ゴミ問題について

- ・ゴミの分別
- ・ゴミ拾い
- ・ボランティア活動
- ・ウェブサイト

～理由～

- ・地球温暖化を防止して
FIP作りやすいため

4/21/23

復興活動

について

- ・ボランティア活動
- ・募金

～理由～

- ・少しでも困っている人の親身になり、
サポートするため。

4/21/23

生徒主体の
啓蒙活動

5班

～理由～

・総合的な結論を学校生活において生徒と一番身近な存在である生徒会役員が呼びかけ生徒達の意識を変える。

SNS を使って

5班

風評被害を軽減する

～理由～

拡散スピードが速く、99%の人が使っている SNS を使えば福島県の安全性を99%の人に伝えられるから。

できること・すべきこと

5班

農業高校が主体とな、て福島~~とな~~ての野菜の安全性を広めていく。
直接、人と関わることで安全性をくわしく伝えることができるから。

6班
SNS活用(情報発信)

理由

- ・現状理解してもらうため
- ・若い方がその分野に強い

イベント、ボランティアなど
活動をすること 6班

理由

- まず、活動をしなければ、人は呼べない。
- 地域を活発的にしたい!!

地域高校生同士で
意見交換 6班

理由

- 興味・関心をもってもらうため
- 地域の人たちと連携をとるため
- 若い世代の意識向上

すべきこと、心がけること

→ **チーム** を×る!!

② 福島県内外でみんなが
同じ活動をし、共有する。

ONE TEAM

7班

できること

→ PR

⇒ 県庁(行政)と高校生会社(著者)
が一体化した取り組み

<u>方法</u>	<u>内容</u>
・広報誌 ・新聞を呼ぶ 社	・集まる場を 設ける ・食べ物 ・観光 ・高校生の声 7班

すべきこと、心がけること

→ 福島の発信を高校生がする

① ↓
こうすることで熱量や姿勢が違う!!

- ・福島の面白い面、魅力的な面、直面する問題を自分達で理解し広める
- ・他地域とつながれる環境をつくる

7班

1班

新しい 伝統をつくる

震災を経験した福島県の若者が自分ができることを。
震災の資料館をつくり、多くの人、次世代へと伝えていく。
新しい伝統をつくらせていくことで、今よりもっと福島県が
豊かになると思い意見を述べました。

1班

SNSで 情報を広める

若い世代が起点となって意見を交わす場をつくり、
県や市のことをもっと知り、大人の方達にも
伝えるために都市の方を呼んでイベントを開いたり
したら変わっていきそうなのでこれを選びました。

1班

若者の議会を つくり、若い人達 を起点に意見を増やす

若い人向けの施設が少ないことや、交流が
少なくなっていることが課題の一つにあると
思い、もっと若者の声に耳を傾けるべきだと
思ったから。

福島についての 2班
理解を深める!!
(観光地を遊ぶ、自然に触れる)

(理由)
まず、私達が福島について学び魅力を知っていないとSNSで発信できない。知っている人は、これから県外へ出たときにたくさんの人に伝えたいから。

FUKUSHIMA 

県内外の高校生 2班
と交流の場を設ける

(理由)
会津のトほ少し奥手のため、たくさん人と交流してフレンドリーになって、自分から福島の魅力を発信してほしいから。交流することでお互い新たな魅力を見つけ深めることができるため。

SNS を使って 2班
魅力発信 

(理由)
今、情報社会の時代で、みんながSNSを活用してたくさん魅力を発信して、県内外の人に福島県や会津地方の良さを分かってもらって足を運んでもらいたいから。

"福島の良い"についての情報発信 3E班
ネット(SNS)の利用

選んだ理由

復興の現状や福島の良いについて
私たちが高校生や若い人がSNSに頼んでいるから
情報が拡散しやすいから

↓

復興の現状、福島の良いについて、少しでも興味を持ってもらい、減少をおこらわすと思ったから。

学校内でもできる 3E班
呼びかけ!!

選んだ理由

ゴミの分別、ポイ捨て、キャップの分別
福島を自然を守るために!!
学校内での呼びかけ、から市町村・県へと
広がると思うから。

ボランティア活動 3E班
少子高齢化の対策

選んだ理由

介助などのボランティアをすることで、少子高齢化の対策になり、福島のことをPRできるから。

4班

地元について知り、
情報を発信する！

(理由)

お祭りなどのイベントを行い、
SNSなどのツールを使って情報を発信
することで、自分たちの地元に対する意識
の向上や、国内外の人に知ってもらえるという
効果があると思うから。

4班

ボランティアやバイトなどで
経験を増やす！

(理由)

- ・地域への社会貢献するため。
- ・外県の人にボランティアを通して
その地を知ってもらうため。



4班

仕事につながる
学習!!

(理由)

地元で就職してもらうために
自分達が専門的な
ことを学習する。

5班

PR動画作成

理由

アニメーションでPR動画を作成することにより、
観光客が増えると思うから。

5班

県内に就職進学 して地元を支える

理由

若い人が就職することによって若い人の人口
が増えて福島県が明るく元気になる。

5班

ボランティア活動 に参加する

理由

- ・一人一人が思いやりをもつことにより、福島県を盛り上げようとする気持ちが芽生える。
- ・コミュニケーション能力の向上につながる。

SNSなどを使った 魅力発信

137

選んだ理由

特に若年層＋主婦層に向け、情報発信をし、
多くの人に知ってもらうことが必要である
から。

自分達地元を知り

138

選んだ理由

自分達地元を知らない
魅力発信ができなくなるため。

政治参加をする

139

選んだ理由

選挙などに行き、福島も若者が
もっと住みやすいと3にしたい必要があるから。

風評被害の払拭のため
受け身にならない
積極的な情報発信

2期生

理由

福島を訪れる人が県産の食品の
安全性を尋ねるといった事例が
多いように感じるため。

SNSで福島を
“発信”!!

2期生

高校生の多くの人利用するSNSで発信することで
視覚的に情報を得ることが出来るため。

見た人に興味をもってもらえるように工夫する。
(写真やタイトルなど)

高校生主体で“地域に
関わるイベント”をする!!

2期生

高校生がやることで地域を知れるし
知ってもらうことができる。

→高校生がやることで興味をひくことができる。

沢山の人がまきこむ。参加した人も知れる。

↓
地域のファンが増える。

3班

県民が 福島の魅力に気付く こと。

- 自分の住む地域を客観的に見こみる。
- 他県、別な地域の人に関してみる。
- 自分で探してみる。
- 別な地域の学生同士で交流する。

理由

観光客が増えたいと考えた時、何が欠けているかと
いったら、「私達県民が」福島の魅力に気付いていないから ^凸だったから。
私達が魅力に気づく → 発信すること
福島をPRできるから

3班

★学校自体が 地域との交流を深めること。

例) ◦地域の清掃 雪かき(力仕事)
◦地域の人々の学校行事への参加
◦授業参観
◦学校生活を地域の人へ発表する

選んだ理由

◦未来をつくるためには、「人との交流」が大事だと ~~思~~ 思った。
その1歩として高校という場を使って、地域との交流を
深めたいと考えたから。

3班

自分から声を上げること

- ・SNSを利用
(小さなことが発信)
- ・学生同士の交流

選んだ理由

- ・思っているだけでは何かがない。
- ・声を上げることが ~~は~~ 大事だから!!

○福島の現状を自ら調べる

4班

課題解決の手法などを考える以前に、正しい
事実を知る必要があると考えたら。

正しい知識がないうままに、情報発信や解決
のための行動を起こしてしまえば、間違えた
方向に物事が進んでしまい、むしろ風評被害
などを契機でましまし、悪化があるから。

調べたことを
マスメディアなども通して
発信する!!

4班

→インターネットが普及しているから。
学校のホームページ等~~を~~利用して
→地域や県だけでなく、
もっとたくさんの人に知ってもらいたいから。

地域のイベント等に参加する

4班

理由

伝統芸能の後継者が不足しているため

5班

気づく、伝える

- 日常生活の中で「こうしたいな」「こうしているな」とはみかんになる
- 高校生ができることは限られているから、SNSを使って情報を発信する。

5班

地域の交流する

- ポスター（呼びかけ）を作る。

テーマ（節電、節水、火の用心）
地球温暖化 など

◦ ポスターを作っても見る機会が少ないので地域で集まって交流することで問題解決につながると思ったから。

5班

ボランティアをする

- ごみ拾い
- 祭りに参加
- 募金活動

罷り理由

- 道路端や田んぼ道など、たくさんゴミが拾えるから、回りがきれい！！
- 地域住民と交流、若い人の呼び込み。
- 自分達が住みやすい地域にするため、募金活動の金で町を元気に！！

1班

人口を増やすために
出会いが大事。



LOVE&PEACE.

理由

福島県は人口が減少している。
それはあってはならないことだ。
そのため、出会いを大事にして皆で暮らそう。

1班

Let's 訓練!!



理由

近所は、皆動ける人とは限らない。
僕たちは若い力を持っている。自分の命を守る
のが大事だが、他の動けない人たちも守ってみよう。

1班

ハザードマップを作っておよう!!

理由

この地域、災害がたかさんひ起っている。
どこに危険がひそんでいるかわからない。
命は大事だ。高校生の登下校を見直しておよう。

県について自分たちがよく
知り、情報をSNS等で発信
していく

2班

理由: まず、知識という前提が無ければ、
発信はできない。だから、まず自分が知識を身に付け、
発信をできるようにしなければならぬ。
また、私たち高校生から発信すれば、学生特有の校内
コミュニティや、SNS上の人々にも発信できる。ここの
発信と異なるのは、その発信が個人的なものである
ことだ。自分から探さなければならぬホームページ上
のものと同じダイレクトに届くので、より効果的に情報
を伝えられる。
以上が、高校生から発信を行うべきという理由だ。

将来の選択肢を広げ
県に役立てるようにする。

2班

理由

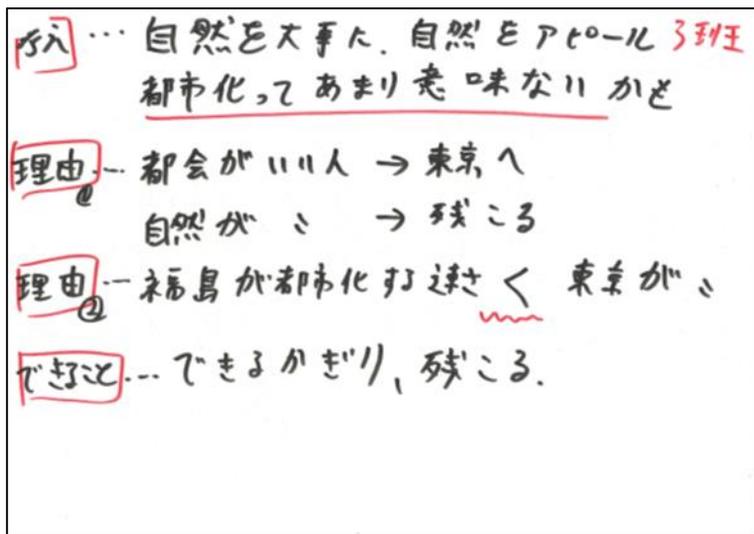
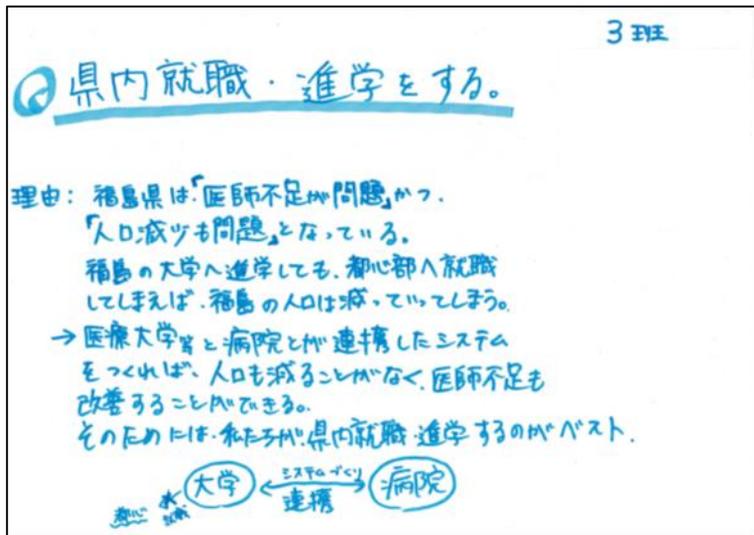
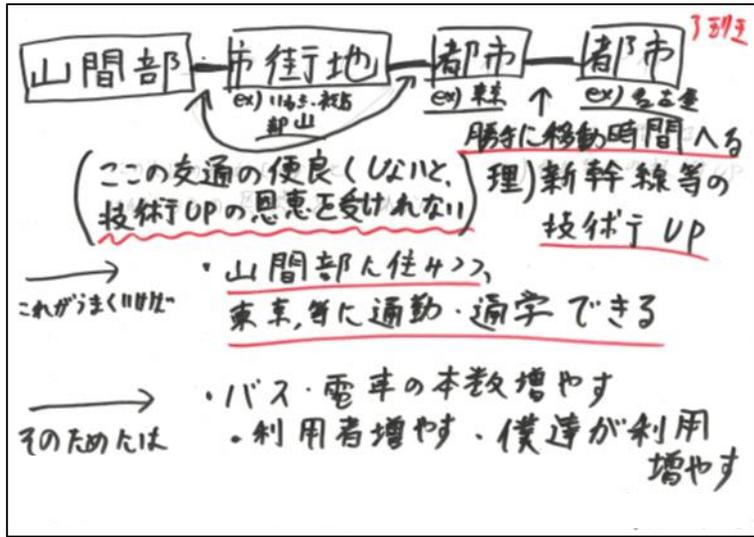
福島県に役立てるような力を
身に付けることで将来的に
県に貢献できるから。

学校の中で
ボランティア団体を作る。

2班

理由: 災害等の復興に協力できるボランティア
団体を高校生の中が築め、県に貢献
していく。

いわき会場 (いわき地域) ③



高校生(子ども)の立場を利用して 4班
大人にうたえる!

理由

何の行動をする際に高校生から動けば、大人も協力しやすいから。

SNSでの正しい情報の発信

4班

理由

- ・利用者が多いので多くの人の目にこそりやすく情報が拾いやすいから
- ・情報の拡散散ぱしやすい。

高校生が町おこし。

4班

ボランティア活動を!!

理由

「高校生」でなくとも「子ども」であることが大人に対して強い影響力があるのでは?

若い世代の人間が地域行事への積極的な参加、地域のアピールをより協力することが福島に限らず未来に良いものにするために必要なことだと考えた。

若いことをもと有効活用!!

高校生が福島を知り
その情報を交換できる!!

5班

理由

若者たちが福島について知る機会が少ない。
だから、若者たちが福島を知ることによっていろいろな
活動をしやすくしたいから。

例) 選挙、地域行事。

(18歳になったら...)

選挙に参加する!

5班

理由

若者が社会に参加することが出来る
一番近い機関・機会を得ることによって、

若者の声が反映されやすく、もっと身近な
所に社会が見える! たとえ、若者が投票しない
と思っても、若者候補の選出が
ある!

図書館や学校を土日など
あけてほしい!!

6班

理由

学力向上のため。

学校だと行きやすい。でも先生方には負担がかかるかも?
図書館だと静か環境がいい。行きの時間や金がかかるとある。

だから、おもしろい活動
場所をもつてほしい。